

田立森林公園の植物採集

下野園 正

第101回例会は、昭和59年7月7・8日、木曽谷で昨年に続いての採集会としておこなわれた。

木曽谷右岸の南端、木曽郡南木曽町田立の滝周辺で、阿寺断崖の上下の極端な植生の違い、即ち、阿寺断崖段丘部の田立森林公園湿原植生と、田立の滝周辺及び下部暖地性植生というねらいで計画した。参加者は当日参加も含めて、井波一雄、大木正夫、大塚孝一、小口好久、奥原弘人、尾台喜貞、梶誠治、堤久、中村英夫、馬場多久男、古谷義人、山崎惇、和田清、幹事下野園の14人であった。

第1日、宿泊場所は田立の滝下の大前民宿。午後から雨が降りだして、賦母国有林の調査に張切ってこられた奥原先生も、雨にとじこめられて苦労なさったが、今をさかりのサギソウが陳列してあるしずも園でしばしの目の保養をなさっていた。参集にはそれぞれおもわくがあって、全員揃ったのはやや遅れたが、例によって植物鑑定にはじまり植物の話が夜ふけまで続けられた。

第2日、あいにくの雨となり、民宿の方をお願いしていたマイクロバスを断わり、各自の車で森林公園だけでも見ることにした。豪雨とはいえないがモヤがたちこめており、例の急崖地をとおり林道沿いのこわさも気付かないまま林道終点の森林公園入口についた。公園への入口歩道は水みちとなって歩くのに苦労した。公園付近は滞水で溜池みたいになっており、地面からメタンガスがふき出している状態がみられた。折角であるので雨の中湿地での植物観

察が続けられた。

公園に入ってます、コバイケイソウの花盛りにびっくりした。樹木類は生長不良であるが、本数の多いネズコの小径木、主幹は枯れていたが下枝の生き続けているコウヤマキが目立った。配列不順であるが気付いた植物名を示す。

サヤマスゲ、ヒメカンアオイ、ヘビノボラズ、ハリガネワラビ、ホソバカンスゲ、コカンスゲ、オタルスゲ、ゴカヨウオウレン、クロソゴ、アオゴウソ、ツルアリドウシ、コバノイヌツゲ、トキソウ、ノギリラン、ナガバキソチドリ、ハナヒリノキ、キョウマルシヤクナゲ、レンゲツツジ、モウセンゴケ、ヤマドリゼンマイ、ハリガネカズラ、マイヅルソウ、コバイケイソウ、ウチワマンネンズギ、フウリンウメモドキ。

奥原先生はヒメモチを見つけないといっておられたが、雨もやまないで断念して下ることにした。案の定、途中林道は土砂崩落でふさがり肝をつぶした。皆さんの御協力で土砂を取除き、ようやく通過できて有難かった。田立の滝の下部植生だけでもと滝元までいったが、雨宿りするところもなく、大前民宿まで下りて、ぬれた衣服を乾かしながら昼食とし、食後しばらく懇談していたが雨も止まなかったので1時過ぎに解散した。

植物分布としていろんな要素の混在するなかでの調査をねらったが、雨のため一部の調査に終り不本意な例会であったが、参加者の御協力を感謝します。

野々海池周辺の植物採集

渡 辺 隆 一

第102回例会は、日本植物学会中部支部例会と合同で、昭和59年9月29日(土)～30日(日)におこなわれた。参加者は当日参加者を含めて、和田清、春原弘、中沢袈裟延、井波一雄、古谷義人、大塚孝一、尾台喜貞、井上圭子、荒井律子、中村英夫、奥原弘人、高橋博之、平林陸男、小口好久と案内役の田中茂、幹事の渡辺隆一の16名であった。

夕方、野沢温泉の民宿「たけい」に集合、名物の外湯にのんびりつかり、夕食。中部支部会よりさし入れのビールで乾杯の後自己紹介。食後、田中氏か

ら明日の見どころと行動予定等の説明がおこなわれ、奥原氏から植物誌の進捗具合等の話や、早くも本日採集してこられたイワウメツル等の植物の話でにぎわった。

30日はあいにくの小雨であったが、全員が車に分乗して宿を出発。途中平林で日本海側分布のナラガシワ、虫生のオオバボダイジュ(それぞれ村の天然記念物)の大木を見学。ユキツバキの分布南限線をこえて西大滝ダムに。サケ放流の話を聞き、貧弱な魚道には首をかしげる。国道117号から見おとしそ